

[ライブ・サーティ]

# Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

## 225

2017年  
11月-12月



### CLOSE UP

## サンローズオオサカ20周年を迎えて

OMICHI ACADEMY

第23回世界神経学会議

第66回日本医学検査学会

OMICHI SCRAMBLE

第6回 脳性まひ講演会を実施しました

森之宮病院の血管造影装置を最新機種に更新しました

### INFORMATION

森之宮病院が病院機能評価の更新審査を受審しました

『脳卒中の神経リハビリテーション新しいロジックと実践』が出版されました



最優秀賞  
「Live30」  
雑誌「Live30」に掲載において  
最も優秀であると認定され、  
日本リーグを受賞します  
日本リーグ協会

平成29年に特別養護老人ホームサンローズオオサカは設立20周年を迎えました  
これまでの歩みや取り組み、今後の展開をご紹介します

## サンローズオオサカ20周年を迎えて



特別養護老人ホーム  
サンローズオオサカ  
施設長  
畑利秀

特別養護老人ホームサンローズオオサカは、本年度に設立20周年を迎えることができました。ささやかですが、7月9日に記念式典を開催し、感謝の意を込めて日頃よりお世話になっている家族会、地域の関係者の皆様をご招待させて頂きました。また、施設理念「自分らしい豊かな暮らしを…」を忘れることなく永遠に引き継げるように石碑に刻み、玄関前に掲げました。

この20年を振り返ると、開設当初より入居されている方はお一人となりましたが、このサンローズオオサカを「終の棲家」として多くの方々が暮らされてきたことが思い出されます。最近では、デイサービスでの夏祭りには、多くの地域の小・中学生がボランティアで参加し、サンローズオオサカ納涼祭でも大勢のボランティア参加や、地域住民の方々の来場が、年々増えてきています。なかでも小さなお子様や小・中学生の来場が多くなり、この日はやはり賑やかな高齢者施設となります。

今後も、「自分らしい豊かな暮らしを…」の理念を基に、地域とともに、そして、より地域にとってかけがえのない施設として10年、20年…と在り続けていきたいと思えます。

### サンローズオオサカ 20年の歩み

平成9年4月、サンローズオオサカは東成区で初めて開設された特別養護老人ホームでした。また、特別養護老人ホームの他に、短期入所生活介護、通所介護、さらに在宅介護支援センター(平成18年に地域包括支援センター)プラランチ総合相談事業に移行)を併設した総合的な高齢者福祉施設でもありました。

当時、高齢者福祉の分野において措置制度に代わる新たな介護保険制度が導入され、社会の構造改革が叫ばれていました。当法人においてもこれらの状況に対応できるサービス基盤の整備が求められていました。その後、平成12年の介護保険制度導入とともに、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を開設、平成21年より認知症対応型通所介護事業を開始し、多様な高齢者サービスが提供できるという特長を生かし、事業の効率的な運営をめざしています。



デイサービスのレクリエーション  
(カラオケボランティア)

## 東成山水学園の建て替え

東成山水学園は、昭和27年7月に保育所として開設され、昭和52年11月に建て替え、平成6年に増築し、定員203名で保育所運営を行ってきました。しかし、平成25年3月に、旧園舎の耐震構造上に問題があることが分かりました。そのため耐震改修工事費用について平成26年度の大阪市施設整備補助金申請を行うことにしましたが、建築上の様々な問題から改修工事は困難となり、全面建て替えの方向で大阪市と協議が行われました。

平成26年度に大阪市より補助金対象法人の決定の内示を受けましたが、補助金対象となる条件は、待機児解消のため定員を203名から300名に増員し、平成28年中に建築工事を完了するという厳しいものでした。さらに建築業界は、東日本大震災の復旧工事や東京オリンピック招致の決定により多忙を極め、またその影響により建築費用が高騰し、当初予算の1.5倍近くまで膨れ上がる等、逆風の中でした。しかし、老朽化した建物での保育運営を危惧して保育所園舎の全面建て替えを計画することになりました。

平成26年度は、新園舎の設計と、建て替え工事期間中に保育運営するための仮設園舎を建築し、平成27年度は仮設園舎へ引っ越しを終えました。わずか1年足らずの短期間で建て替え工事と

なりましたが、近隣の協力・理解もあり、ほぼ計画通りに完成し、平成28年度から新園舎で保育が開始されました。

新園舎の設計にあたり、従来の保育所にはなかった、ゆとりのある空間を設けました。1階部分は、事務室・厨房を除いては共有スペースである遊戯室・食堂を設置し、園庭と一体的なオーブンスペースとしました。窓の開口を大きくすることで多くの光を取り入れ、開放感あふれる保育室となりました。また、屋上を園庭スペースとすることで、定員300名の保育所としての必要面積を確保することができました。



保育所の屋上に園庭を設置

待機児解消の観点からも、最も需要の多い0〜2歳児の定員を大幅に増やし安定した保育運営ができるようにし、平成29年度の園児募集は定員を超える申し込みがありました。

ハード面では、これから何十年も対応できる園舎が完成しました。しかし、今後は少子化の影響を受けて、保育所

を選べる時代が訪れると考えられます。保育内容を見直し、幼児教育についても積極的に取り組んでいき、地域で必要とされ選ばれる保育所にしていきたいと考えています。

## 社会福祉法人山水学園 今後の展開

平成29年度の社会福祉法改正では、経営組織のガバナンスの強化、地域における公益的な取り組みを実施する責務、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化が求められています。当法人は、社会問題である少子高齢化の渦中にある保育所東成山水学園・特別養護老人ホームサンローズオオサカを設置・経営しており、地域福祉の重要な使命が課せられています。

保育所においては、大阪市の待機児解消政策により保育所の整備を進めており、各区役所での保育所の委託事業も開始しています。保育所の整備が進むにつれて保育士の人材不足や今後おこりうる少子化による保育所利用数の減少に備え、認定こども園としての幼保一元化を視野に検討していきます。

また、特別養護老人ホームは「終の棲家」である一方で、地域包括ケアシステムの構築を推進する観点から、持っている資源やノウハウを生かさなければなりません。「地域の拠点」として在宅サービスの提供、地域の生活困難者への支援、地域活性化に積極的に取り組

んでいきます。さらに、地域包括ケアが実現される「まちづくり」に貢献することをめざして地域包括ケアの生活施設としての機能、在宅、入所の循環型機能を併せ持つ施設をめざしていきたいと考えています。

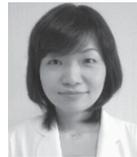
開設から20年の歳月が流れ、高齢者福祉を巡る環境は大きく変容してきました。これからも変化の波は止まらず、「新たなサービスの提供」、あるいは、介護保険の対象となるサービスと保険の対象外のサービスを併せて提供する「混合介護」が常識のものとなるのかもしれない。そうした中でも、この20年間に培った技術や経験を生かして地域の皆様に必要とされるサービスの提供に努めていきたいと思えます。社会福祉法人としての地域での役割を自覚し、大道会の各施設とも連携しながら、職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。



これからご利用者へ寄り添うケアに取り組めます

## 発表報告

### 第23回世界神経学会議



森之宮病院診療部  
神経内科部長  
島中 めぐみ

#### 脳卒中患者に対する外骨格ロボット端末の臨床実証を発表

日程：9月16日～21日  
場所：国立京都国際会館

今回で第23回目を迎える世界神経学会議は、4年に1回の国際学会であり、第58回日本神経学会学術大会と共催されました。近年、京都に招致された国際会議の中では最大級の規模であり、神経学や脳科学を専門とする医師・研究者ら8640名が参加しました。

私は「Optimizing Neurorehabilitation for Stroke Using an Exoskeleton Robot」(邦題テーマ：脳卒中患者に対する外骨格ロボット端末の臨床実証)というタイトルでポスター発表をしました。情報通信研究機構という公的研究機関からの委託で、超高齢化が進む日本で情報通信技術(ICT)を用いて遠隔リハビリテーションシステムの構築をめざす研究プロジェクトの一環です。

脳卒中により腕の麻痺が起こった場合、脳からの運動指令が弱いと腕の重みを支えきれず拳上動作ができなかつたり、肘や手関節が十分伸びず指が使えなかつたりします。リ

ハビリテーションでは療法士が腕の重みを助けながら、スムーズな腕の拳上伸展運動を「頑張れば自分の力で持ち上げられる」ように絶妙な力加減で誘導していきます。私たちはロボット研究の先頭集団である国際電気通信基礎技術研究所・脳情報研究所と共同で、腕の拳上支援ロボットを試作しました。安全性を確認し、患者さんの協力のもと、どの程度のアシストが療法士のサポートに近い滑らかな拳上伸展を助けるか検討しました。

医工連携での研究は、医療者の経験論を科学的に解明したり開発に生かしたり、また脳科学を違った視点で議論できる好機でもあります。近い将来、ロボットが患者さんの体調や回復度を感知してアシスト量を調整する学習プログラムを獲得できれば、リハビリテーション時間以外の生活時間や人手不足の遠隔地等でのリハビリテーションの充実、ひいては患者さんのより良い成果に役立つと考えています。これからも日々の臨床経験を大切にしながら研究を続けていきたいと思えます。



島中めぐみ(右)と森之宮院長(中央)と河野明(左)

## 発表報告

### 第66回日本医学検査学会



森之宮病院  
診療技術部検査科  
浦田 穂波

#### コナット判定の妥当性について発表しました

日程：6月16日～18日  
場所：千葉幕張メッセ

当該学会は3日間行われ、一般講演の他、特別講演、シンポジウムおよび、ランチョンセミナーと多岐にわたるプログラムがありました。院内で検査している検査項目について一般講演はもちろんのこと、外部委託である細菌検査や病理検査について理解を深めるため、肺癌の最新のトピックスや微生物検査の迅速化等、現在どのように行われているかを聴講しました。他施設がどのようにして検査、検査運用をしているか等、大変勉強になり、当検査室でも取り入れることができるものもありました。

演題発表では、栄養サポートチームに関する「コナット判定の運用」と題してコナット判定の妥当性について発表しました。コナット判定とは、測定したアルブミン、トータルコレステロール、リンパ球実数をそれぞれ評価し、それらの合計スコアで栄養状態を正常～高度異常まで分類するものです。現在、当検査室から

はサービスデータとして臨床に報告されています。他施設でも広く取り入れられており、コナット判定の妥当性は周知されていましたが、運用という点では、他施設でも難しいところがあるようなので、これからも調べていきたいと思えます。

今回初めて学会に参加し、演題発表をしたことで知識を増やすことができ、向上心を持てる良い機会となりました。また、他施設での検査の実際や運用の仕方を勉強することができ理解を深めることができました。

## 発表報告

### 第28回全国介護老人保健施設大会 愛媛 in 松山



グリーンライフ  
療養サービス部3科  
深澤 渉

#### 施設内での貼り絵活動と外出支援に取り組んだ事例を発表

日程：7月27日  
場所：ひめぎんホール

愛媛県総合社会福祉会館

グリーンライフ療養サービス部3科では、在宅復帰に向けてADLの向上をめざすため、PTやOTによるリハビリテーションに加え、介護福祉士による自主訓練も行っています。テレビを見る事や読書をする等、楽しみを持つている方もいらつしやる一方で「何をしたらいい?」、「やる方もいらつしやいます。食事や

入浴以外の時間を居室にこもって生活することで、生活リズムのメリハリがなくなってしまうことや、ADLの低下も考えられます。そこで、何か楽しいと思つて頂ける時間を提供できないか考え、施設内での貼り絵活動と外出支援に取り組んだ事例を発表しました。

貼り絵活動の効果として、今まで居室にこもりがちだった方が、日中のほとんどの時間をフロアで過ごされるようになりました。貼り絵を通して他者と関わる時間ができ、挨拶や会話をされる姿も増えました。外出支援では、職員と共に大阪城公園や施設近隣の喫茶店に外出し、「外に出られるだけで嬉しい」とご利用者の喜ぶ姿や笑顔を多く見ることができ、ご家族からも感謝の言葉を頂きました。今後も外出の機会を増やし、楽しみを持って頂けるアプローチを続ける必要を感じました。課題も多いですが、多職種で連携を取り、ご利用者が「その人らしく」生活できるように、寄り添った支援を行い、充実した施設生活を送って頂けるように励んでいきたいと思ひます。



近隣の喫茶店にてコーヒーを楽しまれました

発表報告

大阪介護老人保健施設協会懇話会(事例発表会)



グリーンライフ療養サービス部3科 稲葉 泰峰

老人保健施設の「看取り介護」について発表しました

日程：7月6日

場所：大阪国際会議場

大阪介護老人保健施設協会懇話会(事例発表会)は、大阪府内の老人保健施設それぞれが取り組んだ研究や事例を発表し合う場です。斬新な発想の題材もあれば、従来のテーマであったも新たな視点で掘り起こす等、同じ老人保健施設で働く者として非常に勉強になります。私は、「グリーンライフにおける看取りについて」と題し、当施設で行っている「看取り介護」をテーマに、施設側の視点で捉えた「看取り」のありようを発表しました。

「看取り介護」とは文言の通り、施設でお亡くなりになるまでを前提として介護、看護を行うことです。普段は高齢者の在宅復帰を目標に、日常生活動作の向上をめざして多職種が取り組む施設です。しかし、以前は自宅で亡くなるが多かったのが、病院へと変わり、そして今、それは高齢者施設へと広がって来ています。そうした社会情勢の中でグリーンライフも「看取り」に関わっています。

発表の場では、看取られる方の状況、関わるご家族の心境、職員の感情等、整理がつきにくい中、模索しながらケースを重ねる実情と老人保健施設としての役目を発表しました。課題も多い取り組みですが、こうした発表の場を持ちつつ研鑽を積みたいと思ひます。

発表報告

第19回日本医療マネジメント学会学術総会



森之宮病院事務部 庶務課副理事長秘書 奥田 陽子

多職種連携にワールドカフェを活用した一例を発表

日程：8月7日・8日

場所：仙台国際センター

日本医療マネジメント学会は、医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ医療連携、医療安全等、医療の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げています。職種横断型でありながら、現場から経営までの職位縦断型でもあり、医療では珍しく広い範囲を含む学会です。この数年は参加のみでしたが、今年には「多職種連携にワールドカフェを活用した一例」院内研修の効果測定」と題して口頭発表を行いました。

多職種連携は重要でありながら実践は難しく、専門職が協働する現場では永遠の課題といえます。ワールド

ドカフェという最近注目されている対話の手法を院内研修として取り入れ、アンケートによりどのような効果があったかを測定しました。他院でも同様の取り組みがみられました。効果が効果測定までは行っておらず、大学院で学んだ経営学における人材育成の知見を、現場で活用できたと自信を持つことができました。

全国の志ある多職種の方々との交流では、日本看護協会前会長の坂本が氏とお会いする機会を得、当院のWLBへの取り組みを再認識頂くことができました。多職種が集まる学会なので普段はあまり興味を持たない分野の発表やシンポジウムを聞き、視野を広げることもできました。

対内的には、事務系が発表することが珍しいようで、院内でのリハサルや報告書の提出を通し、「実務について学術的にまとめて発表することの重要性」を知って頂く機会にもなりました。「新しい取り組み」とそれを「見える化」して発表するサイクルを回し続けたいと考えています。



日本看護協会坂本すが前会長と懇親会にて

法人全体

## 第6回 脳性まひ講演会を実施しました

7月22日、森之宮病院にて第6回脳性まひ講演会を行いました。テーマは「PVL(脳室周囲白質軟化症)による脳性まひの特徴と治療」で、ポバース記念病院の荒井院長が講演しました。

今回はPVLという病気に特化した内容でしたが46名が参加され、最後は多くの質問を頂きました。

脳性まひ講演会は、「自分達の病気をもっと知りたい」というご要望からスタートしました。今後定期的に開催します。ぜひ、ご参加下さいませ。

(森之宮病院事務部フロント  
サービスク主任 下里忠光)



荒井院長の講演の様子

サンローズ  
オオサカ

## 恒例の納涼祭を開催！ 楽しい1日になりました

8月26日にサンローズオオサカ納涼祭を開催しました。今年例年の屋上ではなく、1階・2階をメイン会場にし、生ビールやたこ焼き、焼きそば、アメリカンドッグ、こどもコーナー等を出店しました。

ご利用者やご家族だけではなく、多くの地域の方やボランティアの方に来て頂き、会場は大賑わいでした。また、入所のご利用者・ご家族に向けて、宝

栄民謡クラブ・大五連女性部の方々がフロアで盆踊りを披露され、ご利用者も「楽しかったよ」とおっしゃっていました。

皆様のご協力もあり、大盛況で閉会を迎えることができ、良かったと感じています。来年もより一層楽しい納涼祭になる様、一同努力していきますので応援をよろしくお願いします。

(サンローズオオサカ介護サービスク 今井大介)



ご利用者の方も出店めぐりをされました

森之宮病院

## 音楽鑑賞会を 開催しました

6月14日、森之宮病院のこもれば広場にて平成29年度第1回鑑賞会を開催しました。今回は合唱集団「アンサンブル・ムジクス」の方々をお招きし、計6曲の合唱を聞かせて頂きました。

当日は、こもれば広場の名にふさわしく、梅雨を感じさせない青空から日光が会場内へ差し込み、ポカポカと温かく、心地の良い空間が広がっていました。

男性パートの力強い声、女性パートの透き通った声が見事に調和し、ホール全体に響き渡っていました。眼を閉じ、耳を傾ける方やリズムを取られる方等、皆さん、様々な楽しみ方をされていました。参加して頂いた方からは「もっと聞きたかった」、「とても良かった」等の嬉しいお言葉を頂き、大盛況のうちに閉会となりました。

次回の鑑賞会もぜひ、お楽しみに。

(森之宮病院薬剤科 小西智洋)



参加者の皆さんが歌声に聞き入っている様子

## 第10回 全国連携実務者ネットワーク連絡会に参加しました

地域連携に先駆で携わる実務者の講演をはじめ、女子プロボクサー世界チャンピオンの特別講演等を交えた「全国連携実務者ネットワーク連絡会」に参加しました。

実務者講演では、院内外を問わず所属や職種の枠を越えて相手の知識・技能を知り、地域の医療福祉環境の向上に結び付けることが地域連携の役割であり、地域包括ケアシステムの構築の要であることが強調されていました。

特別講演でも、業種・職種を問わず「目的意識が成長の糧となること」、「プロとしての自覚」の重要性を学びました。さらに今回、ポスター展示の機会も頂き、全国の医療・介護関係者の方々に当院の強みや連携室の取り組みを広報しました。また、他施設の規模や機能、地域ごとの社会状況・特色に合わせた創意工夫等、これからの日常業務に役立つ事例を知ることができました。

今後の業務において、法人内はもちろん、紹介元をはじめとした医療・介護機関の方々の期待や改善の要望をしっかりと伺いしながら、一つひとつの気付きや幅広い着眼点を大切にしていきたいと思えます。さらに、柔軟な発想力と行動力を持ち、病院と地域を結び付ける連携を行い、地域から求められる病院になれるよう貢献していきたいと考えています。

(森之宮病院診療部地域医療連携室 榎本彩乃)



展示ポスター  
当院の取り組み・連携室の強みをPR

## 森之宮病院の血管造影装置を最新機種に更新しました

森之宮病院は心臓の冠状動脈・下肢動脈の血管撮影や動脈硬化性疾患に対するカテーテル治療等、主に循環器内科領域で使用される血管造影装置を最新機種に更新しました。

開院時よりフィリップス社製の血管造影装置 Allura Xper FD10Cを使用していましたが、2017年10月から同社製の国内設置3施設目(西日本では1号機)となるAzurion 7シリーズ 12Cを導入しました。

世界的に評価の高いフィリップス社の最新装置であり、圧倒的な高画質化と58インチ大型モニターを採用したことで視認性が向上し作業効率も改善する等、ワークフロー(業務の流れ)の向上が期待できます。また、Clarity IQの導入により大幅な被ばく環境の軽減を実現しており(従来装置の約半分に低減)、患者さんと術者の被ばく線量が軽減できます。さらに、造影剤使用量の低減が可能

となる新たな機能も搭載されています。これからもより一層患者さんに優しく安心安全で質の高い治療を提供していきます。

(森之宮病院画像診断部画像診断科 大西邦和)



世界的に評価の高いフィリップス社製のAzurion 7シリーズ 12Cを導入

## 森之宮病院が病院機能評価の更新審査を受審しました

9月6日～8日に、森之宮病院は開設以来3度目となる病院機能評価の更新審査を受審しました。1月にコアメンバー21名が選出され、病院の沿革等の施設資料や260頁にわたる現状調査票、評価項目159項目に対する自己評価コメントと、関連する延べ328種目の記録物等を順次整備しました。さらに、合同面接や部署訪問、対象3病棟の概要説明、ケアプロセス(治療、看護、リハビリテーション等の実践状況)への対応に向けて模擬演習を重ねました。

直前まで不安と緊張の日々でしたが、本番では、サーベヤー(調査官)の様々な質問に一同が自信を持って対応することができました。病院を少し

でも良くしていこうという思いを職員が共有できた意義深い3日間でした。年内には、具体的な審査結果が報告される予定ですので、改めてこの誌面でお知らせしたいと思います。

(森之宮病院診療部医療安全主幹 竹下誠一)



サーベヤーとの質疑応答の様子

## 『脳卒中の神経リハビリテーション 新しいロジックと実践』が出版されました

9月20日に中外医学社より森之宮病院の宮井院長代理が編著を務め、大道会神経リハビリテーション研究部の研究員らが執筆した『脳卒中の神経リハビリテーション 新しいロジックと実践』が出版されました。

本書では、リハビリテーション医療の現

状や神経リハビリテーションの基盤となる知識、考え方が紹介されています。脳卒中のリハビリテーションに携わる医師をはじめとした多くの専門職の方々にご一読頂ければ幸いです。



### ご寄付・ご寄贈を頂きました

原田喜久代様(浪速区)、萩田保男様(生野区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

### 編集後記

今年も残り少なくなってきました。今年は私にとって初めての後輩ができ、戸惑うことも多くありました。しかし、指導を行うことで自分の業務について見直す機会が生まれました。これからは安心して受診して頂けるよう努めていきます。

(森之宮クリニック企画広報部 西田恵美)

**Live30 [ライブ・サーティ]**  
2017年11-12月号  
vol.225 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会  
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1  
TEL.06(6962)9621  
FAX.06(6963)2233

#### ●本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

#### ●職員行動モットー

- 親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)  
待たさない/よく説明する/  
連携する

#### ■社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

東中浜ケアプランセンター

☎06(6962)3777

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

#### ■社会福祉法人山水学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山水学園(保育園)

☎06(6974)7377